

特35

767

大日本佛教會圖書館

自
函
架
號

一 冊	二 〇 四 號	三 架	一 七 函
--------	------------------	--------	-------------

頁
新
一

天

不盡道別

全

014589-000-0

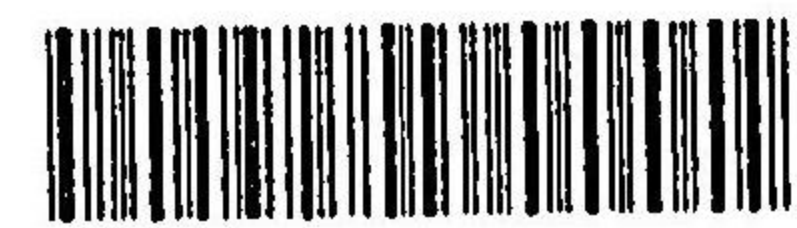
特35-767

不盡道別

德大寺 莞爾/著

M8

ABB-1006



德大無量壽佛

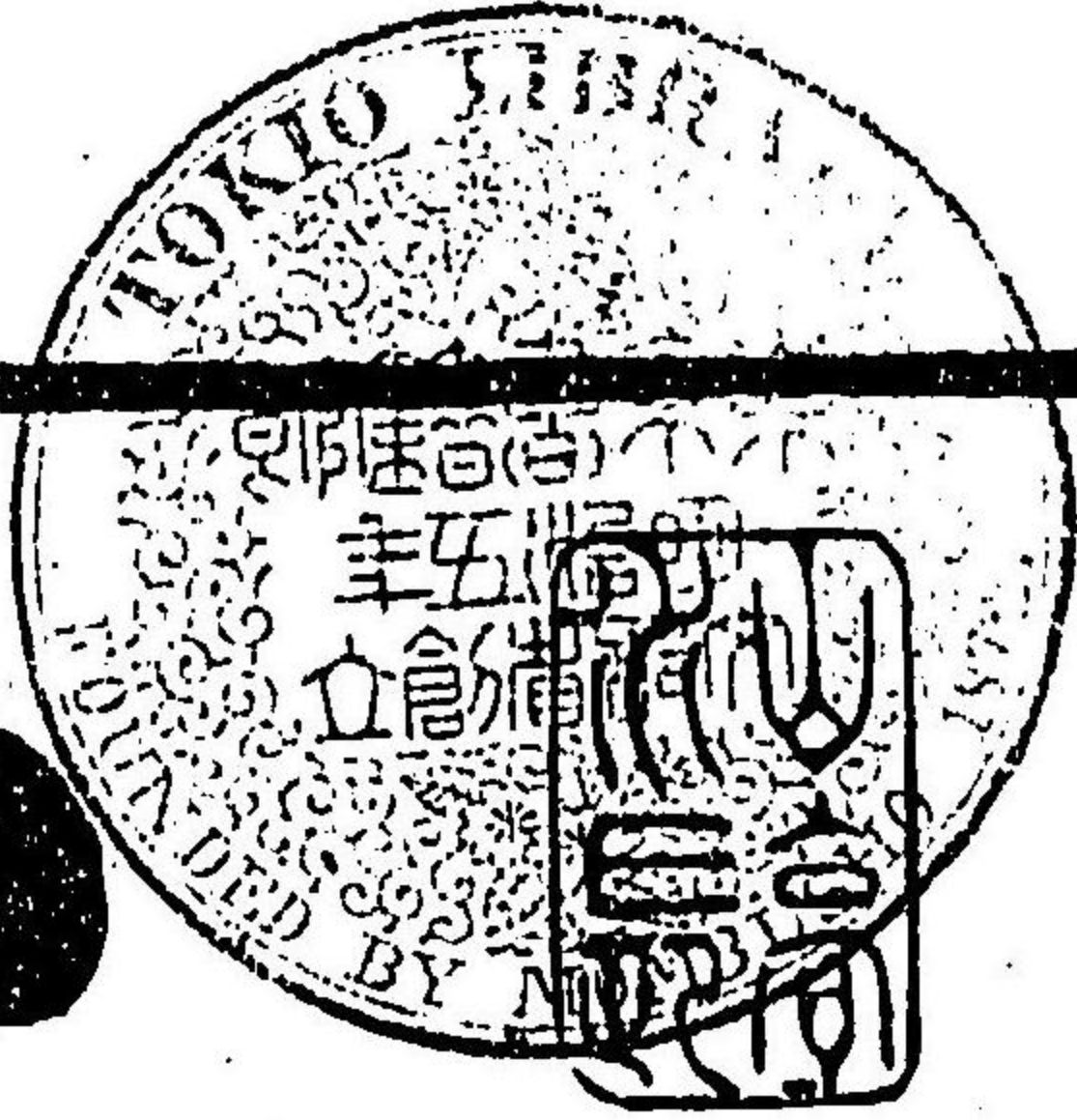
不費心子

雲乃社樣

許

官

特35
767



立

明治十年圖書局交付

立

立

道子

祭酒劉大猷心學知



不盡道別序

夫立言立德者皆欲明其道也而二者成於學之純粹識之閎深而龜勉不倦之餘豈復淺劣求速之徒所企望者哉其學純粹故取舍必義其識閎深故行藏必正加旃以精誠不息之行於是乎人心服焉教化行焉言德并立可以得

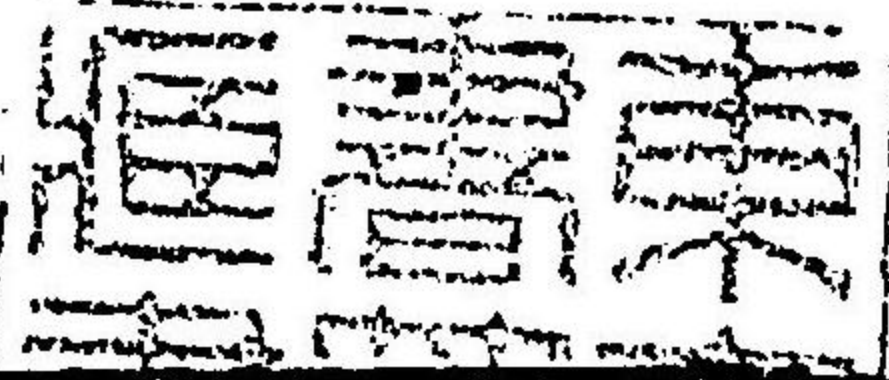
事物之理符天地之節也。非特得事物之理符天地之節而已。宜傳之久遠而
 不朽也。至宜傳之久遠而不朽者。而後
 所謂道者始貴矣。近世吾黨之士。弥盛
 道德寔微。蓋所從舊矣。予觀世教之衰
 概篤意詞章訓詁。而憚言道德教化。力
 行之學。聖受其弊。恬不為怪。終致萎靡

潰敗無益於人。而有害於道矣。今也當
 豐亨豫大之運。代不乏俊邁之士。而猶
 尚不能立言立德乎。世以明其道者。又
 可痛耳。師翁有嘗見於此。鈔統承之記
 欲示吾之徒。以見有夫往昔百折千挫
 不屈不撓。能誘掖後進。精誠之氣。殆立
 言立德。明其道。而有復興起懦薄。以後

事教義シキウギニシヤウニ小禪世道也セイドウニ夫明道敷カフダウ化雖吾シラヒ
之徒不敢ズトアテ當然至其得之者不復得辭コトニ
者歟モカコシ刻成一言傳師意於吾徒云爾ワガトニ

明治八年六月十五日

鳩谷 中行子鵜殿正親識



大樽善徳年表一冊書編

徳行 相承

流 邪 正

邪 論 徒

御布令 旨 属

朝 恩

趣 恩

奏 恩 稿

此の法は...
 如く...
 備...
 余...
 未...
 地...
 有...
 相...
 最...
 惟...
 病...
 許...
 願...
 割...

此の法は...
 如く...
 備...
 余...
 未...
 地...
 有...
 相...
 最...
 惟...
 病...
 許...
 願...
 割...

常陸國新羅郡巡田後者の傍り

とあるは、この浦の傍り

とあるは、この浦の傍り

常陸國新羅郡

不盡道別 大講義徳大寺莞爾述

富井國鎮護乃靈山ぬるすハ萬葉集

歌有は今更云す此岳ハ初テ登陟

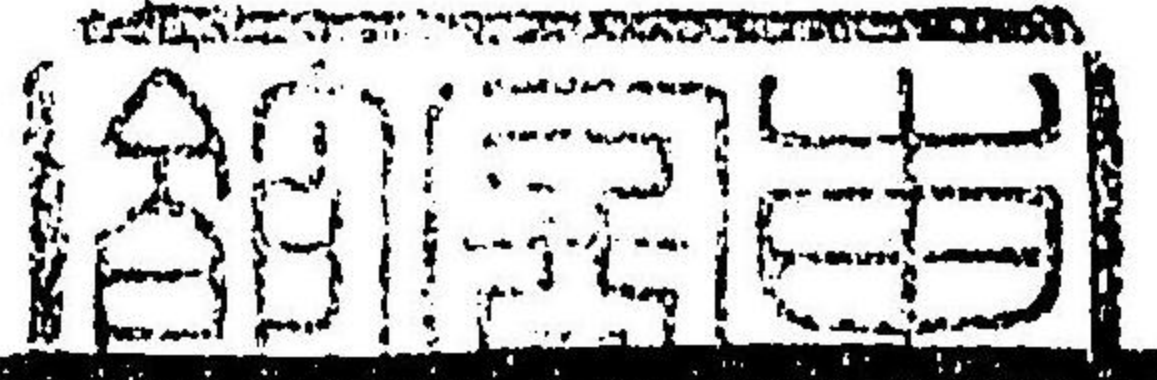
夜小角あるら。都良香卿の富士山

兼大僧希觀の元亨釋書ハ録えどんぞ

登岳乃権輿あるべし都氏山亦岳巔の真形

を悉ふ記さるべし親しく登臨有し著

し竹取物語ハ源順朝臣ハ設け作りせむ



物^{モノ}の^レせ^バ證^シと^スあ^ーら^うら^う又^キ近^キ世^ノ富^ノ士^ノ講^トと
 唱^ナめ^ル一^{イツ}種^ニの^ノ講^カ社^ニ有^リて^テ旧^キ曆^ノ乃^ハ六^ハ七^ハ兩^ハ月^ノ間^ニ
 登^ト山^ス其^{ソノ}開^{カイ}祖^トを^シ天文^ノ年^ノ間^ニ出^デた^ル長^ハ谷^ハ川^ニ
 角^{カク}行^{キョウ}真^マ人^ニあ^リて^テ當^{トキ}時^ニ肥^ヒ前^ノ國^ノ杵^シ島^ノ郡^ノ長^ト崎^トは^シ長^ハ
 谷^ハ川^ノ左^ノ近^ニ久^ク光^トと^シ云^フ人^ニ有^リて^テ應^{オウ}仁^ニ以^テ來^ニ關^カ國^ノ擾^ヲ
 亂^シ戰^{セン}闘^ヲ止^ムむ^ト時^ト久^ク天^ノ變^ニ地^ノ妖^ヲ屢^ニ凶^ニ兆^ヲを^シ顯^ス
 し^テ饑^キ饉^ニ疫^ニ癘^ニ相^シ續^スて^テ流^リ行^スし^テ万^ノ民^ノ塗^ニ炭^ニ乃^ハ苦^クを^シ
 受^ケる^ニ然^ラ見^ルる^ニ忍^ビび^テ斯^ク時^ノ勢^ヲを^シ挽^キ回^セん

人^{ジン}力^{リキ}強^ク以^テ做^スら^うら^う只^シ神^ノ明^ノの^ノ眞^ニ助^トを^シ祈^ル
 る^ニ志^スら^う然^ラり^テ我^レ生^レ得^ル魯^ノ鈍^トら^うて^テ
 且^カ多^ク病^ニぬ^レが^レち^ニ顛^ニ行^クも^シ勤^クが^レた^ラ此^ノら^うへ^テ
 は^シ一^{イツ}子^ニを^シ得^ルて^テ治^セ世^ヲ安^ク民^ノの^ノ行^キ法^ヲを^シ勤^クま^セむ
 天^{テン}神^ノ地^ノ祗^ノ乃^ハ感^{カン}格^ノ有^リて^テ天^ノ運^ヲ循^ル還^スし^テ仁^ニ
 徳^{トク}名^ヲ將^シ世^ヲ出^デて^テ天^ノ下^ヲを^シ一^{イツ}統^トし^テ上^ニを^シ震^シ襟^ニ
 を^シ安^クん^ド奉^ルり^テ下^ニを^シ万^ノ民^ノを^シ安^ク堵^クぬ^レら^うぬ^レ
 る^ニ疑^カひ^あら^うと^シて^テ夫^ノ妻^ヲ丹^ニ誠^ヲを^シ抽^キ一^{イツ}子^ニを^シ授^ケ賜^ス

ろくくると天地神明シノイ祈請キシヤウせらむるに満ミ
 願ノゾク弘夜ヨ當つゝ北辰星胎ホクレンセイタイ内ナイ宿ヤドと夢見ユミ
 懐妊クワイニシし月満ミチ一男子ナシ産ウむ實ジツ天文十
 辛丑年カチウシ正月十五日也オチ此兒コ芳名ヨウミヤ竹松タケマツと云
 後左近ノチササキ廻年クワシ角行ツノユキ真人マコト東覺トウキョクと稱イハ以ヨリ幼稚コウシと
 り父母フボ乃ハ教誨ケウワイ弘受カケ一其志願シを擔當タンタウし永祿エイロク
 元戊午年ゲンブウ十八歲家サイを辭シしてナ東國トウコクふ赴オモ
 常陸國ヒタチノクニ新治郡ニヒハコノコカリツチウラノガウ土浦郷トウホノガウふ至イり旭日アサヒ乃ハ豊榮トヨサカ

昇ノボり弘フイ礼ハイ拜ハイし專モソク天下テノカ泰平タイヘイ國土コクド安全アンゼンを默禱モクダウ
 せらる夫ツレ々シり四方シハフふ周游シユユウして名山メイザン勝槩シヤウガイ海カイ
 津江湖シシヤウ神社コジン佛閣ブツカ靈場レイギヤウを巡拜メグルハイし終ツヒふ富士山フジヤマ
 入イて岳巔ガクテン中道人チウダウ穴アナハ湖等ハツカイを跋陟ハツシヤウし其處トコロ
 々シり朽クいて種々シユシユ乃ハ苦行クギヤウを修シユし天正三テンシヤウ乙亥イノキ
 年トシ故郷コキヤウ長寄ナガサキふ故省コセイして父母フボ乃ハ安否アンヒを訪トひ
 國々クニクニ此景況ケイキヤウ巡行ジュンギョウ苦行クギヤウ乃ハ狀情ジヤウキョウ弘シ悉シツふ語告コトツケら
 る志願シヤウケン成就ジュウジツ遠トホくと父母フボ乃ハ歡喜クワンギ大オホ

うたぬ〜ヨリネン翌年ふ至て定る命數ふや有り
 ん父母引續ヒキツきて没去せらるる真人をさ〜ぬ
 別ヒキツせ乃悲歎ふ沈シガゝ懇ネシヨふ喪を營イナゝ終りて猶
 殘ノコるる國々巡拜せむと再び長等を立出タチイデ
 越前乃山中サシキウにて盜賊齋藤助盛を説得し
 且其持病乃癩癩カッソノゲビウ修法乃奇特シタシニユウふ由て全治し
 けせキマキアリば忽惡を翻ヒキスして峻トチ弟とちめり名を大
 法と改ホトタて随役バイニョウ一野州二茨山湖水行中ノシウニハツコみち

宇都宮ウツノミヤふる黒野運平クロノウシヘイが痴啞靈夢オシレイカを感じて
 平癒ヘイユしけせむれも後弟トチイと成て名曰日珮ニチガシ
 と改アタむ夫ウツノミヤらと三人相伴アヒトナひて又富山トヨヤマ入り
 維岳神ニシノカミを降クダして仁徳ニトク乃名君メイクニを生じ乳賊滅ニヤク
 盡ジンし泰平タイヘイふ復フクせんを祈請カニヤウせらるる
 多年也斯オカて至誠懇願シニクンに効驗カウケンありや元龜天
 正シヨ乃頃コら織田オリダ豊臣トヨトミ乃二公忠勇ニクナウユウの鋒ホウを以
 四海シカイに逆亂ギャクランと鎮シメめ終ハシふ徳川トクカハ氏シ至イハて諸侯シヨウ
 不盡道川フシヤウ

を威服し、天朝を尊奉し、下民を撫育せらるるを
 志し、上下昇平の徳化を浴多敷を見、真
 人を父母の志願に空しく、うらぎらるる歎び
 猶其恩頼を報い奉んと、弥勤行懈怠あつるを
 山靈に感應有るや、皇國を大地球中元
 首の國富岳を參神の分規の在裏あるを
 發覺し、天地之始、國土之柱、天下恭國治、大行
 之本也。ふと云ふ數言を遺して、正保三丙戌

年六月三日、行年百六歳人、穴中に飯化せら
 ば、已上大行のニナガシ日珥道統を繼、珥心月行と相
 續し、元禄享保間、ふ至て村上光清派伊藤食
 行派と二分し、其下又數派に分ち、年を逐て
 盛んぬるが、以て世ふ八百八講と稱を一派
 といふ、ふ先達と稱する者有り、此徒修験者ふ
 擬して、白衣を着し、鈴を振り、咒文陀羅尼や
 う、如物を唱へて、富士登山、又苦難ふ遭ふ

者疾病に悩む者祈禱と云ふが社友集會し
 て焚上防ぎ摘むと云ふ修法を行し丹誠
 と抽祈るんまゝ教驗有るなり光清ハ江戸
 人諸人乃信仰深き者して甲州都田郡吉田
 村ある淺間社再建も同社乃信者を募りて
 竣功し且諸侯に代参と勤て威権を振ひし
 のを其派殊も盛也食行老師を伊勢人江戸
 在て彼真人たり四世乃師傳を相承し生

業勉勤如餘暇知識の門を敲きて妙旨を了
 悟し禪関を透得して別ふ一家風を立無祿
 如遊民を賤めて正業に属し如四民同等如
 原理を知て家職を勉勵せしむる教風を布
 演せらるる明治六年官許梓行有し参行中
 山開祖の意を述て誠なる道ありしなり御
 代とのりの関も戸のあくる不尽の裾原ある詠
 せらるる万國交際維新開化乃今日を

百五十年前既^シ洞^{トウ}察^{サツ}せら^レせ^シ如^{ゴト}し終^ハへ
 遺^イ訓^{クン}を十^{サイ}歳^{ザイ}乃^{ハナ}末^{マツ}女^メ花^{ハナ}子^コに授^{ジュ}與^ユし終^ハひ享^{キヤウ}保^{ホウ}
 十八^{ハチ}癸^{スイ}丑^{シュ}年^{ネン}七^{シチ}月^{ゲツ}十^{ジュウ}七^{シチ}日^{ニチ}富^フ岳^{ガク}馬^バ帽^{バウ}子^シ岩^{イハ}よ^ハ箒^{コモ}
 之^シ終^シ焉^ニを^シ示^シさ^レる^ル其^{ソノ}後^{ノチ}伊^イ藤^{トウ}派^ハ日^ヒを^{オヒ}逐^{オヒ}て^{サカシ}盛^{サカシ}
 也^{シカ}然^シを^シも^シ其^{ソノ}徒^ト固^コ蚩^シ々^シ如^カ祖^ソ民^{ミン}あ^ハせ^バ道^{ミチ}の^チ
 國^{クニ}奥^{オク}を^ウ以^テう^デ窺^{ウカ}ふ^{コト}を^エ得^ル人^ニ只^シ苦^ク行^{コウ}修^{シュ}法^{ハフ}と
 疾^{シツ}病^{ベイ}祈^キ禳^{ジヤウ}如^ニく^ニと^ニ要^{ユウ}務^ムと^コ心^{ココロ}得^ル被^ハ詞^ジ陀^タ羅^ラ尼^ニ等^{トウ}
 と^コ混^{コン}合^{ガフ}し^{コト}或^レも^レ神^{シム}官^{カン}僧^{ソウ}侶^{リョ}修^{シュ}驗^{ケン}者^{シヤ}あ^ハら^ズ争^{カウ}訟^{ソウ}
 争^{カウ}訟^{ソウ}

を^オ起^キし^{コト}政^{セイ}教^{ケウ}乃^ハ妨^{バウ}害^{ガイ}と^ナ成^ナる^ル屢^ル有^ルし^{コト}也^ナ
 云^{クニ}ふ^{クニ}浅^{セン}間^{カン}社^{シャ}乃^ハ宮^{ミヤ}司^シ宗^{シユウ}野^ノ氏^シ岳^{ガク}中^{チュウ}ふ^{クニ}安^{アン}置^チ有^ルし^{コト}
 佛^{ブツ}之^ノ像^{ゾウ}を^シ破^ハ棄^シし^{コト}醜^{ウシ}具^グと^シ掃^{ソウ}除^{ジョ}せ^シ謝^{シャ}肇^{ショウ}制^{セイ}の^チ
 古^コ之^ノ祠^シ泰^{タイ}山^{サン}者^{シヤ}為^ル岳^{ガク}也^ナ而^{シテ}今^{イマ}之^ノ祠^シ泰^{タイ}山^{サン}者^{シヤ}為^ル元^{ゲン}
 君^{キミ}也^ナ岳^{ガク}不^レ能^ズ自^ラ有^ル其^ノ等^ト而^{シテ}今^{イマ}之^ノ姓^{セイ}女^メ主^{シュ}偃^{エン}然^ニ標^{ヒョウ}
 其^ノ上^ノ而^{シテ}奔^ハ走^{ソウ}四^シ方^{ハフ}之^ノ人^ニ其^ノ倒^{タウ}置^チ亦^モ甚^{シク}矣^{ナリ}と^シ論^{ロン}出^デ
 所^{ショ}言^{ゴン}を^シ迷^メ其^ノ勇^{ユウ}断^{ダン}賞^{ショウ}を^シ敬^{ケイ}神^{シン}の^チ篤^{トク}志^シり^{コト}出^デ
 混^{コン}濁^{ダク}の^チ迷^メ佛^{ブツ}名^ナ禁^{キン}制^{セイ}乃^ハ札^{シヤ}と^シ建^{ケン}怨^{オン}々^シ説^{セツ}諭^ロを^シ者^{シヤ}
 と^シ真^{マコト}行^{コウ}し^{コト}佛^{ブツ}固^コ結^{ケツ}の^チ俗^{ソク}習^{シユウ}猶^{ナカ}未^ミ融^{ユウ}解^ゲせ^シ者^{シヤ}
 有^ルと^シ同^{ドウ}ち^ニ然^シ中^{チュウ}伊^イ藤^{トウ}老^{ラウ}師^シの^チ遺^イ託^{トク}を^シ守^シ
 う^ハ花^{ハナ}子^コに^シ傳^{デン}承^{ショウ}し^{コト}る^ル花^{ハナ}形^{ガタ}浪^{ラン}江^{カウ}不^レ詳^{シヤウ}後^{ノチ}老^{ラウ}

師乃家名を繼て伊藤伊兵衛と通稱し参行
 と歸せらる。此師教義乃真面目を解悟し邪
 解乃俗講等が煽煽と避て江戸三谷の陋屋
 へ隱匿し其人を待居らせしに文化六己巳
 年正月武州足立郡鳩谷驛より小谷庄兵衛
 三志翁尋到りて指授を受らる。此翁心身堅
 剛よりて行徳全備し四方を經回して子弟
 と誘導し帝都へ至りて寶祚延長と祝して

御所は南門へ臨坐礼拜し二葉山へ詣て
 太平浴化乃洪恩を礼謝ももも幾百度と云
 ふ限を知り總て富岳へ登陟して國家豊安
 と禱らるる。一六六一年一度晩年へ至て大
 活眼を開き前代相承乃混淆雜説を盡く陶
 汰し純粹乃國教を改革せんと端緒を開
 る。其生卒は行業を著藕塘子所撰の碑文に
 悉ありて掲げ

鑑德碑

道之浩浩無所不在而行之則存乎其人謹按
 斯道肇角行而興於食行傳之至於吾祿行翁
 而大成其道則人之道也人者依地而處故重
 於地地者包於天者也故尊乎天天地之道變
 而恒通故說於變万物變化生々不已生者必
 有氣氣者賅之充也故說於氣人道莫先於孝
 孝者天地之經誼人之高行也故說於孝矣夫

其道之所垂歷歷如此可謂盛矣也而中間未
 流以祈禳惑世參行憂之毅然矯之環堵索然
 風日不蔽捫虱而坐傳道無人翁幼而穎敏慨
 然以道為念父不得為子相敬如賓出入諸家
 求所謂道翁能書有措則授業者數百人終不
 以是為足遇登富岳有所禱遂私泚於人知世
 有參行翁授數年立雪沐雨竟遇參行師資相
 得道統有繼爾來四十年于此五畿七道木鐸

不已ヤミ西極九州東抵八州ニテ乃入京師ハタシニシニシ授紳賜服
 遂至崎魯漢客寄詩化其教者十萬餘人コトニ此豈
 勉強期月間之所能我抑精誠之動天地感見カコシ
 神洗入以善者然也嗚呼翁夙興夜寐夏不扇フセキキ
 冬不爐七十餘年如一日其出也百舍重繭蓬ホウ
 累而行所至以忠孝力耕為教以慈儉不爭為
 行而志氣卓爾卒然遇又王侯失其貴情夫有
 立志嗚呼其可謂至德也已矣テニ以天保十二年

辛丑九月十七日卒カイトウシノ葬武州鳩台ヲソス・ハタガヤノガツ鄉地藏院先
 塋之側カシニオキテセシフ諡曰清德諱三志ロク祿行其跡也サニイハクコソ贊曰翁
 弱而喪父水漿不入口盡夜七日侍父墓ジノ慟哭オノハカニドウ
 動人遂以孝教而不匱其類者其本蓋在乎此コトニ
 也歎カ 藕塘志毛正應撰
 羽室右中辨頭孝卿三志翁ハハロウ六十六乃賀ガ云
 云ふ詞書コトガキ

去々原の...
 〇十

不盡道別

ゆる歌もみ代をうき標へ。

又孝道公世うれもめふ小谷三志よ被布と
以物をももふととて有りて

く物をももちうらまゝももみらふ不二

そふもをうらまゝももみらふ不二

又門人鈴木頂行が著る所は勸善録の序を
賜ふ。

ま祝をふいそふく後ちおの原へ

ゆるふうあてうあきまの人の治いの中

ふゆりうきともう流きおらふふ人を

さをき掃きを上りてあり人のた

くらもめぬししてふる善想のかぶら

まらけむきあはたら修ありはららの

せは順ゆきて校まうらわぬぎら

あまをうらまゝあてあはたら修ありはららの

おの國のゆる佛のをいえうもらうま

不盡道別

谷三志翁勸善録と題せし書は高田與清の
序あり。

余坊に三志翁と交を結びてりり
廿年にも近く來ぬ翁は忠孝貞節の教
を以て世人を導くを務めし家名を
不墜と看做さるる由歎くこと
くして笑者も直抱し吾等を勸め
行之を誨まぬ為うの望を以てせ

以て東西南北の通ひ一國家の爲
と功を立する少くも
を以てを更しゆれも
先づ己が生業を以て
高くして實ふ聖代の治民と云ふ
くあ拜翁が一人頂行する由
友とて其行ひ翁を継ぎ
めり翁を云く

天保三壬辰年来船乃清人沈萍香が贈し詩

川派富士列層嵐一念誠求菩薩恭山以人

傳名不二化由佛感志維三蓼莪至趣天倫

得此姑興懷大道函愧我遠游難語孝頌君

今望到江南

以全高跡生日
百禱冠以生性本
傳于万救斯性武
千神峰時敏藏
以々為者行國
千感先聞純是
傳其生其薦達
万真息地蓋郡
莫而游有孝鳩
不默之富不谷
奉行化所士行
孝以常山于行
道一孝名世三
而傳道不先生志
先百克二潤先

生之名當与富士山並爭不朽
衛詩成七律一首以紀盛事即請
大清道光十一年壬辰春之月
館中松石軒吳門沈萍香未定草

猶翁の志操高邁教化盛徳如事實也門人駿

州沼津の和田三傳の筆記一置るる鳩の杖

不悉あるに次で上梓を乞ひて今ハ聚略

を記し開祖よりハ代國家の為不憂心苦

行有し夕を知らず天柱地鎮の神山を穢

さへ本教如大基礎と敬信して外教不蠱惑

不盡道別

けりくすめく固有コイウの神徳シントクを崇奉ソウホウする純粹ジュンスイ
如神民ニシニシも志シめ拜ヒトヨウと欲ホツする也カク

不盡道別終

一世セ南行カクギヤウシン真人ジンをよめる。
不盡フジンの徳トクと後イ天テンの道ミチ別ワケするものあり
らんのものやまき 高タカくそつ

二世ニシ日現ニチゲン師シ三世サンシ現心ゲンシン師シ四世シシ月行ゲツ師シ
はまのあらきまを功イサツもまをえん存ゾウせり

あまのげともあどにいたるあて 二世フタヨシ三世サンシ
四世ヨシよけりくすめく道ミチを傳ツタへり

五世ゴシ食行シキヤウを師シ行業ゲヤウの正マシき心眼シンガンの

あまのこころのゆるゆるをひらきし強高なる心。

婦人の子孫をいづれもあてきつゝ

流石の流石とまじりしおまじりや

六世花子の君。楠正行の御子の才

まじりしおまじりや

父の志をいづれもあてきつゝ

ありし指子もあてきつゝ

七世参行老師。川原の樓の道

奥の志をいづれもあてきつゝ

水あての志をいづれもあてきつゝ

もあてきつゝ

八世新行老師

富子の志をいづれもあてきつゝ

あてきつゝ

六世花子の君。楠正行の御子の才

ありし

花子

念鏡乃

らもらぬ清世を

代々の所志

道の光るも

あはれは迷に

三才新

大講義徳大寺亮甫

定價十二文

明治八年六月廿二日

文部省ニテ許可相成也

滋賀縣下近江國湯賀郡膳所本町

著述人

徳大寺亮甫

東京府下第一區北區通二丁目六番地

出版人

島崎源兵衛

